平成２２年度	雙葉中学校（国語）	解答と解説

解 答

一　問一　**辞**［して］

問二　②　**ふつうの人とは大きくちがう**［もの］　　③　**どのような**［人物］

問三　ア　**4**　　イ　**5**　　ウ　**2**　　エ　**3**　　問四　**3**

問五　［猫の］**額**［ほどの庭］　　意味　**とてもせまい**［庭］

問六　**人里はなれた山奥にひとりでひっそりと暮らす祖父の孤独な生活を思い、その淋しさを自分もしばらく味わっていたいと思ったから。**

問七　**久しぶりに会う洪作が大きく成長していることにおどろくとともに、その成長をほほえましく思っている。**

問八　**洪作と唐平のどちらが大きいかという話題への興味はうすれた様子で**

問九　１　**合掌式という榾木の並べ方**　　２　**木干し法という乾燥のさせ方**　　３　**外国への輸出**

問十　**祖父が椎茸を作っている場所を実際に訪れ、条さんから祖父がいかに椎茸作りに力を尽くしてきたかを聞いて、目の前の榾木が、祖父の椎茸作りへの情熱がこめられたとても価値のある尊いものに感じられたから。**

問十一　**2**

問十二　**立派な椎茸作りでありながら他の仕事にも敬意を示し、「仕事は自分の一番好きなものをやればいい」と言う祖父の考え方に心を打たれ、自分の将来についても優しい言葉をかけてくれたことがうれしかったから。**

問十三　［人］**みしり**

問十四　**心から尊敬できる祖父という存在に出会えた昂奮が冷めない中、今頃祖父は静かな山奥の家でひとり眠っているのだろうかと考え、祖父のことで頭がいっぱいになっている。**

二　問一　ａ　**例えば**　　ｂ　**しかし**

問二　**カメラの前に立つとだれでも、自分が人から見られていることを意識し、無意識のうちに本当の自分を押しかくして自分をよく見せようとするものだということ。**

問三　**細かい技術的なことや目の前のプレーに関係ないことを、観戦の妨げになるほどしゃべること。**

問四　**エ**　　問五　**左右**　　問六　**ウ**

問七　**アメリカの大リーグの解説は、日本の解説者のように細かな技術的な解説はなく、選手の立場に立って事実を的確に興奮とともに伝えているだけだということ。**

問八　**人の話をうのみにするばかりで当事者意識がなくなり、自らの頭で考えなくなった結果、個性とともに広い視野と柔軟な発想が失われ、新しいものを創造することができなくなった人。**

三　(1)　**余念**　　(2)　**均等**　　(3)　**会心**　　(4)　**画一**

(5)　**険悪**　　(6)　**伝授**　　(7)　**遺失**

解 説

一

問二　②「常人」とは普通の人、「常人ばなれ」ですから「普通の人とは違う」という意味です。　③「いかなる人物なのであろうか」とは「どのような（どういう）人物なのであろうか」という意味です。

問三　ア　感心するような気持ちがこもっています。　イ　好意的な気持ちを表しています。　ウ「椎茸」のでき具合を表しています。　エ「じっくり」という意味です。

問四　「このように［ A ］な、このように［ B ］された家」というのは、祖父の家のことですから、「掘立小屋」、「それでも～小さい縁がついていて」、「食器が棚の上にきちんと並べられてある」などをてがかりにして考えましょう。

問六　前の部分を見ると、「洪作は傍に唐平が居ることも忘れ、妙に淋しい自分一人の思いの中にはいっていた」とあります。雑木林を見つめ、ここで一人で暮らす祖父の孤独な生活を思い、物思いにふけっているのです。そして、唐平がどこかへ行っても「動きたくない気持があった」というところから、しばらくその思いを味わっていたいと感じていたことが読み取れます。

問七　洪作が祖父のことを、「いつのことか忘れたが、とにかくどこかで会ったことのある人物」と言っているように、洪作と祖父とはずいぶん長い間会っていなかったのです。祖父の「眼を細めた優しい表情」から、久しぶりに洪作に会う喜びが感じられます。また傍線部「頭のてっぺんから爪先まで見廻すようにして」からは、大きく成長した洪作の姿におどろく気持ちと、成長をほほえましく思い、洪作の今の姿を目によく焼きつけておきたいというような気持ちが読み取れます。

問八　「唐とどっちが大きいかな」という質問に洪作が「同じくらいです」と答えているのに、祖父は「どれ、椎茸飯でもご馳走することにするかな」と、もう次のことに気持ちが移っていたのです。「そのこと」というのは、「洪作と唐平のどちらが大きいかという話題」、「思いを移している」はもうそこに思いがないということなので、「興味がう

すれている」と言いかえることができます。

問九　粂さんの話の中で、椎茸作りにおける祖父の功績が挙げられています。一つめは「こういう榾木の並べ方を合掌式と言うんだ。あんたっちの祖父ちゃが発明した並べ方だ」、二つめは「木干し法って言ってな。このほた木につけたままで椎茸を乾燥させるのも、じいちゃんが発明したんじゃ」、三つめは「椎茸を外国に初めて輸出したのも、あんたっちのじいちゃんだぞ」からまとめましょう。

問十　「そうした話は、学校の教師の口から聞いたことはあったが、いま粂さんの口から聞くと、全く違ったものに聞えた」から、この場所で粂さんの話を聞いたことにより、洪作の気持ちに変化があったことがわかります。「学校の教師の口から聞」くのとは何がちがうのかというと、祖父が椎茸を作っている場所を実際に訪れているということです。そのような場所で、粂さんから祖父の椎茸作りにおける数々の功績を聞き、目の前の榾木には、祖父のこれまでの椎茸作りへの情熱がこめられていることを感じているのです。また、「木の間から洩れている弱い秋の陽を浴びている〜何とも言えず美しく見えた」とありますが、これは、ただ榾木が「陽を浴びている」だけではなく、榾木を尊いものと考える洪作の気持ちから光り輝いて見えたのではないかと考えられます。

問十一　「そんな血」というのは、代々受け継がれてきた椎茸作りの血のことです。「唐の体にも、洪の体にも椎茸作りの血が流れている」と祖父に言われ、そんなことを言われたことのなかった洪作は、おどろき、すぐには実感できずにいるのです。

問十二　「洪作は話を聞いていながら〜思った」とあるので、この直前に書かれている祖父の話からそのように思ったのだとわかります。祖父は、「椎茸作りの血が流れている」ことを誇りに思い、自らも立派な椎茸作りでありながら、「仕事は自分の一番好きなものをやればいい」、「役場へ勤めることが一番立派だと思ったら役場へ勤めればいい」などと、他の仕事にも敬意を示しています。また、傍線部の直後に「こんなに静かな口調で、自分の将来のことに触れた話などしてくれる人にぶつかったのは初めてのことだった」とあるように、洪作は、祖父が自分の将来についても優しい言葉をかけてくれたことがうれしかったのです。

問十四　傍線部の直後に、洪作の考えていることが書かれています。今頃祖父は静かな山奥の家でひとり眠っているのだろうかと思いをはせ、また、その日心から尊敬できる祖父という存在に出会えたことで昂奮しているのです。

二

問一　a　三か所とも、直前で述べたことの具体例が空欄の後に挙げられているので、「例えば」があてはまります。
　　b　空欄の前と後で逆の内容を述べているので、逆接の接続語があてはまります。

問二　前の形式段落の「“見られる”ことを前提として“演技”するようになりました」、また、傍線部の後の「“見られる人”ではなく、常に自分であり続ける」から、「演技する」というのは、人から見られていることを意識し、本当の自分を押しかくしてよく見せようとすることだとわかります。しかも「本能的に」ですから「無意識のうちに」ということです。

問三　筆者は、日本のプロ野球の解説は、「細かい技術的な面に大きな重点がおかれ」ている、「あの選手は気迫があるとか、この選手はやる気がないとか」いった目の前のプレーに関係ないことが多いと指摘しています。そして、アメリカの大リーグの英語の解説について「野球の観戦の妨げになる饒舌なところがありません」と述べています。

問四　「思わず呼吸を止めてしまうほど緊張する」という意味の「息づまる」を選びましょう。

問六　「日本語の放送では、日本のプロ野球の場合とまったく同じように」とあるので、解説ばかりだという意味になる言葉を選びましょう。

問七　「ただそれだけです」というのは、日本のプロ野球の解説のように、不必要な情報＝「細かな技術的な解説」はないということです。そして、「野球をする選手の立場に立って」、目の前のプレーについて「興奮とともに」伝えているのです。

問八　最終段落を中心に考えます。筆者は、「これからの日本を担っていく若い」人たちに、「事実をどこまでも自分の頭で考えていく当事者になって」ほしい、「個性を磨き、広い視野をもつ柔軟な発想の大人」になってほしい、「新しいものを創造する人」になってほしいと考えています。筆者がなってほしくないと考えている「評論家」とは、その反対の人です。